

## 2017 年度学校 学校評価(小学校)の最終報告

2018 年 3 月 22 日

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2017 年度に実施した「学校評価」の内容をご報告致します。

### ① 報告までの概要

学院に学校評価委員会を設置し、前年度の結果をふまえて内容の再検討を行い、「学校自己評価アンケート」を作成した。調査対象は小学校の教職員（非常勤講師は除く）とし、2 月に実施、3 月に集計し、評価委員会を設け、その後、理事会に報告する。

### ② 評価項目と 評価方法

#### ① 評価項目

学校運営、教育内容、生活指導支援、教員研修・資質向上に 4 分類し、それぞれに評価項目と観点を設けて実施した。

#### ② 評価方法 … 4 段階の評価を行った。

A： よくあてはまる

B： ややあてはまる

C： あまりあてはまらない

D： 全くあてはまらない

### ③ 2017 年度の重点目標

- I. 信愛インスパイア教育（探究型授業の実践）をメインテーマにおく。
- II. カトリック精神を基盤に温かな人間関係、主体的にチャレンジする活力と姿勢を育む。
- III. ICT 機器を活用体験し、対話的で協同的な学習を進める。

### ④ 重点目標の取り組み

- I. 昨年までにおいては、緑・赤い羽根募金等、学校内で行ってきたが、今年度初めて、縦割り学年グループ（1 年から 6 年）で実際に街頭に出て、募金（ユニセフ）活動の体験をする。
- II. 主として、算数・国語で自分ノートの作成や表現力をつけるために一人学習や分かち合い、ふり返りの学習形態を通じて、主体的な学習姿勢になるよう指導をする。
- III. 機器を学習の中で進んで使い、興味・関心をもたせ、より理解につなげる。

### ⑤ 目標達成の評価指標

- I. 街頭募金を通して、自分の今の生活や考えの変化。例えば、身の回りの持ち物、鉛筆を短くなるまで大切に使う等。年度末の生活チェックで達成しているか、クラスの過半数以上を目標とする。
- II. 宿題以外の自主学習を毎日取り組む。  
学習後のふり返りで、児童自身が「よくわかった。友達の考えを知った。違いがわかった。等」と言う意見が 3 分の 2 以上見られるようになったを目指す。

Ⅲ. 高学年であるが、ロボット学習でプログラミングのプレゼンなど、しっかり説明できるようになり、より確かな主張をする。新校舎になったので、情報教育(20・21)機器の利用26の項目は肯定的評価を少なくとも80%以上にする。

#### ⑥ 2017年度の重点目標の評価と課題

I. インスパイアー教育の一環として、映像での世界現状を学習し、ユニセフ募金「ハンド・イン・ハンド」に取り組んだ。

- ・街頭募金活動を通して、道行く人に呼びかける体験、我慢・物を大切にするという事、ご協力いただいた際の喜びなど、「あたりまえの生活」を見直す良い機会になった。以後、子ども達の中から「もったいない」という言葉が聞かれるようになり、文具を使用可能な限り使うようになった。

II. 宿題以外の自主学習への取り組みは、評価指標8割以上の児童が見られる。来年度は、100%を目指すために友達の学習を紹介してほめたり、示唆したり、助言していくことにする。

- ・学習への取り組みにおいては、算数を例にとると、

1. その日のめあてを書く 2. 自分で見通しをたてる 3. 考えを図や式で表す 4. 友達の考えや方法を学びあう 5. まとめとして、学習の最後にわかったことやできるようになったことを書く

この流れが定着して、子ども達のノートは自分ノートになってきた。特に、3の自分の考えは絵や線分図など、工夫が見られるようになってきた。

国語に関しては

年間内で物語文の単元を選び、

1. 一人学習 2. わかったこと・感じたことを書き込む 3. 発表しあう(分かち合う) 4. その日のふり返りを書く

表現する力がつきつつある。これが、11月に行う学習発表会にもつながっている。

学習発表会は、

1年 よびかけ 2年 合唱 3年 英語表現 4年 聖劇 5年 群読 6年 器楽合奏

Ⅲ. 新校舎に移り、タブレットパソコン・授業支援システム『みらいスクールステーション』を使った授業を始める。

- ・子ども達自身が機器を使う事によって、学習により興味を示し活発に取り組むことができた。

- ・他校とのテレビ会議においては、タブレットを使って行い、情報交換や情報共有ができた。

## みらいスクールステーションの利用について

- ・ほぼすべての学年・クラスで一日のうち2時間以上利用されている。特に、教材の共有について、積極的に教材共有をする場面が多い。リモコンですぐに表示できる手軽さが理由として考えられる。また、運動会や学習発表会などの練習風景もタブレットで撮り、みらいスクールステーションに入れることで昼休みの少しの時間でも振り返りに使用する事ができている。
- ・教科ごとの取り組みを見てみると、国語や社会では教科書にある挿絵を写真やスキャナーでみらいスクールステーションに入れておく。算数では、問題をみらいスクールステーションに入れておき、教室で映し出した問題へホワイトボードマーカーなどを使い解答を書き込む。図工では過去作品の写真の提示、英語では単語の表示、情報ではプログラミングの写真の提示など今まで時間がかかっていた部分をみらいスクールステーションで時間の短縮をはかっている。操作のしやすさや教材の共有の容易さが利用率の高さにつながっている。
- ・校内生放送の機能も徐々に使用頻度が高まっている。今年度は6年生の発表だけだったが、来年度は放送朝礼での各委員会からの話などにも利用し、児童によりわかりやすく伝えることが出来るようにしていきたい。

## タブレット端末について

- ・タブレットについては教員用 PC40 台のうち、10 台を設定しなおして児童用 PC としている。今年度は普段の業務については教員用 PC を使用する先生方もいたが、授業で使用するという先生方は少なかった。しかし、来年度はタブレット学習ソフト「ジャストスマイル」のデモ版をプリインストールし、1 学期の研修課題として使ってもらおう。また、今後は新しく「ロイロノート」を試験導入し、使用率を上げていきたい。
- ・授業の中での利用は、主にグループ（3 人～5 人）に 1 台で使用している。グループ学習でインターネット検索やプログラミング、発表の資料作成などさまざまに使用。来年度は 5 年生の戦争についての調べもの学習や 4 年生の防犯設備についての社会科の学習、4 年生の国語の調べ学習や 3 年生のアンプラグドプログラミングの学習（発表用）などでの使用を考えている。
  - 1 年生のほぼ全員が、パソコン、マウス、キーボード、ディスプレイの名前、クリック、右クリック、ダブルクリック、ドラッグ、ホームポジション、エンターボタン、などの名前と操作方法を知る。さらなる目標はローマ字打ちで自分の名前を入力することである。
  - 2 年生では、目標は自分の名前以外の文字をローマ字入力することである。
- ・3 年生の単元から 1 つの学期に一回のペースで情報リテラシーや情報技術操作について勉強する機会を持っている。
  - 3 年生はインターネットの使い方。タブレット PC などを使い自分の知りたいことを調べる技術を学ぶ。「キーワード検索」の方法や「グーグル」や「ヤフー」など検索会社なども学ぶ。
  - 4 年生からは 6 年生の発表に向けて携帯電話の使い方やユーチューブ、インスタなど、身

近にある危険について学ぶ。また、6年生の発表では児童達が調べたことを自分たちの言葉で下級生に伝える工夫を見ることができた。

#### プログラミングについて

- ・3年生よりプログラミングの授業を行う。
  - ・今年度3年生の授業は「順次処理」、「条件分岐」の2種類をした。来年度の3年生は、1学期で「順次処理」2学期で「繰り返し」を行う予定。内容的に授業内容を少なくすることで考える力はつけたい。
  - ・来年度、プログラミングと教科の連携を5年生で進める計画をしている。今年度は連携授業ができなかったが、音楽や理科との連携を学期に一回のペースで行いたい。それぞれの教科の内容を深めることが出来るように考えていく。
  - ・6年生はロボットの授業を行った。ロボットの授業は成果がPCの中だけではなく、現実に動くものとして現れるので児童の関心が高い。取り組みとしては、来夏、他校との合同大会を開く予定をたてている。
- ・来年度は、更により効果的な使い方をして、子ども達の学習の広がりや理解に役立てていく。

#### 別紙

教員の学校自己評価で、

教育内容 教科指導 26 教育機器の利用…(A+B)中間 76% → 最終 100%になった。